

平成 30 年度 第 1 回

総合教育会議 会議録

曾 於 市

平成 30 年度 第 1 回総合教育会議

日 時	平成 30 年 5 月 23 日 (水) 午後 10 時 00 分～
場 所	曾於市役所 2 階 庁議室
出席者	<p>出席者</p> <p style="margin-left: 40px;">五位塚 剛 市長</p> <p style="margin-left: 40px;">八木 達範 副市長</p> <p style="margin-left: 40px;">大休寺 拓夫 副市長</p> <p style="margin-left: 40px;">谷口 孝志 教育長</p> <p style="margin-left: 40px;">馬場 雅子 教育委員長</p> <p style="margin-left: 40px;">川畑 和徳 職務代理</p> <p style="margin-left: 40px;">須田 郁子 教育委員</p> <p style="margin-left: 40px;">長野 かおり 教育委員</p> <p>事務局</p> <p style="margin-left: 40px;">総務課長</p> <p style="margin-left: 40px;">総務課 施策推進室 室長</p> <p style="margin-left: 40px;">総務課 施策推進室 地方分権・選挙係長</p> <p style="margin-left: 80px;">係員 2 名</p> <p>教育委員会</p> <p style="margin-left: 40px;">総務課長</p> <p style="margin-left: 40px;">社会教育課長</p> <p style="margin-left: 40px;">学校教育課 指導係長</p> <p style="margin-left: 80px;">指導主事 2 名</p>
会 順	審 議 の 結 果 等
1 開 会	<p>開会時刻 10 時 00 分</p> <p>進行：総務課長</p>
2 市長あいさつ	<p>◎市長</p> <p>平成 30 年度が始まりまして 1 か月がたちました。第 1 回の総合教育会議ですが、教育に関して色々な課題があるところではあります。なんといたっても人口減少が大きな課題としてあります。農業や商工業を含め、市内で頑張ってください方を増やすため、市としても様々な努力をしているところで</p>

	<p>あります。小学校の児童は前年度から比較して15名ほど減少しておりますが、色々な手立てによって食い止められているのではないかと考えております。今年度からは月1,000円の学校給食費の支援など、厳しい財政状況ではありますが、積極的な子育て支援を行っているところであります。子どもを産み育てやすい環境づくりも人口増加へつながると考えております。また、学力向上については、一定の成果が上がってきているところでありますので、今後も積極的な取組を行っていただきたいと思っております。</p> <p>それでは、協議に移らせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>3 協議事項 (1)児童・生徒の学力・体力の現状と対策について</p>	<p>◎市長 児童・生徒の学力・体力について、事務局より説明をお願いします。</p> <p>◎学教教育課 指導主事 (児童・生徒の学力について、平成30年1月に実施した鹿児島学習定着度調査(小学5年、中学1・2年)および平成29年4月の全国学力・学習状況調査(小学6年、中学3年)の結果について説明。)</p> <p>◎学教教育課 指導主事 (児童・生徒の体力について、平成29年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を報告。「たくましい”かごしまっ子”育成推進プラン」「体力アップ!チャレンジかごしま」について説明。)</p> <p>◎大休寺副市長 中学1年の数学の結果が県全体と比較して、高くなっている理由については、何が考えられますか。</p> <p>◎学教教育課 指導主事 数学は教科担当の教員がいますので、数学の力のある教員がいることが挙げられます。 また、昨年度から時代に即した授業となるよう調査を行い改善してきている成果が出ているのではないかと考えられます。</p>

	<p>◎教育長 この結果には、末吉中学校入っていなかったと記憶しておりますが、どうなっていたでしょうか。</p> <p>◎学教教育課 指導主事 調査時に末吉中学校がインフルエンザで学級閉鎖になっていましたので、結果には入っておりません。</p> <p>◎教育長 末吉中学校の結果が入ると、データは少し変わってくると思われませんが、各学校とも教員の指導力向上が必要であると共通認識しており、その成果は出てきております。</p> <p>◎市長 目標として、県平均を越えるのはいつ頃になりますか。</p> <p>◎教育長 現在は県平均に並べるよう取り組んでいます。</p> <p>◎馬場委員長 昨年度の取組について、紹介してはどうでしょうか。</p> <p>◎学教教育課 指導主事 昨年度は、ミドルリーダー研修として先生方を秋田県の学校へ派遣しました。秋田県の学校では飛び抜けて優れた教員がいるという訳ではなく、全ての先生が平均的な指導力を持たれており、学校内で安定した教育が行われておりました。 当市の先生方も大変感銘を受けられておりましたので、今年度も別の学校の先生を派遣したいと考えております。</p>
<p>(2)「校区・地区公民館」と新たな組織「コミュニティ協議会」の考え方について</p>	<p>◎市長 「校区・地区公民館」と新たな組織「コミュニティ協議会」の考え方について説明をお願いします。</p> <p>◎総務課施策推進室 室長 （「校区・地区公民館」から「コミュニティ協議会」移行していく旨を自治会運営の手引（抜粋）にて説明。）</p>

(3)小学校統廃合の考え方について

◎市長

小学校統廃合の考え方について、事務局から説明をお願いします。

◎教育委員会 総務課長

(小中学校の学級数・児童生徒数の現状および平成 36 年度までの見込み、特別支援学級および複式学級の現状について説明。)

◎市長

小学校の統廃合については、行政が主導するのではなく地域から声が上がって議論していくものだと考えておりますが、市としても検討しておく時期にきているのではないのでしょうか。

◎教育長

曾於市教育総合計画（後期計画）における小学校の教育を語る会にて、地域の方からはやはり小学校は残して欲しいとの声が多かったのですが、複式学級のある小学校 2～3 校からは、統合をしなければならないのではないかと意見がありました。

とある保護者からは、子どもの教育を考えると統合した方が良いと考えているが、小学校の歴史や地域との繋がりから声を上げにくいという意見もありました。

中谷小学校では児童数の減少により、学級編制が難しく、教頭先生に担任を兼任していただいています。

市としては、すべての子ども達に平等な教育環境を提供する必要があります。教育委員会では、平成 31 年度から検討委員会を開催する予定です。

また、小学校では、編制により期限付き教諭を配置しているところもあり、優れた先生もいらっしゃいますが、配置に 3 年の期限があり、継続的な教育環境の提供ができておりません。

小学校を統合した場合でも、通学方法や老朽化した校舎の課題等もあり慎重な議論が必要だと考えております。

◎市長

今年度 3 件、地元の小学校へ通わなかった児童がおりました。保護者の方としては、子どもの将来を考えて、入学しても同級生がおらず、授業やスポーツ等を通じた同級生との交

	<p>流・競争ができないことを懸念され、苦渋の決断をされておりました。今年度新入学生が0の小学校が4校あり、今後増えていくと思われまますので、やはり議論する時期にきていると思われまます。</p>
<p>(4)教育施設等の整備に関する中・長期的な考え方について</p>	<p>◎市長 教育施設等の整備に関する中・長期的な考え方について説明をお願いします。</p> <p>◎教育委員会 総務課長 (学校施設等の現状と課題、整備に関する基本方針及び整備目標等について説明。)</p> <p>◎市長 小学校の統廃合にも関わる問題でありまして、学校施設を維持するとなると、改修を行わなければならないので、財政的にも負担が発生します。中長期的な整備計画について議論を行っておかなければならないと思われまます。</p> <p>◎川畑委員 岩川高校跡地利用について、岩川小学校の移転案を聞いていますが、今の校舎を取り壊して運動場にすることで、校舎から運動場を見渡しやすく、先生の目が届きやすいのではないかと考えています。</p> <p>◎市長 岩川高校の跡地利用については、6月議会に出す予定ですが、プロポーザルを行いより良い利用方法を検討してまいります。</p>
<p>(5)曾於高校支援策について</p>	<p>◎市長 曾於高校支援策について説明をお願いします。</p> <p>◎教育委員会 総務課長 (平成26年から平成29年までの曾於高校振興費の執行状況、平成29年度の大学進学祝金贈呈事業について説明。)</p> <p>◎教育長 大学進学祝金について、今年度からは私立大学等の成績値4.0以上4.5未満について無くなるのではないですか。</p>

◎教育委員会 総務課長

ご指摘の祝金については、経過措置でしたので今年度からは廃止されます。

◎市長

進学した大学について、高校に垂れ幕等を設置したほうが良いのではないのでしょうか。

◎教育長

要請はしているところです。個人名までは載せないにしても、前向きに検討していただきます。

◎市長

進学先を周知することで、小中学生のやる気向上にも繋がるのではないのでしょうか。

また、隣接市の高校へ進学しなくても良いよう、曾於高校から国立大学へ進学できるという意識づけや、中学生に積極的な進学のアドバイスを行っていただきたいと思います。

◎教育長

各中学校では、曾於高校に進学するようアドバイスをしていますが、大隅町では朝課外に間に合う通学バスが無いという意見も聞かれます。

また、曾於高校以外の選択では隣接市の高校だけでなく、通学バスや特待生制度のある私立高校へ進学する生徒も増えてきております。

◎馬場委員長

曾於高校へ通っている保護者から、1年生まではバスがあるのに、2～3年生になるとバスを利用できなくなってしまうことへ不満の声を聞きました。

また、進学先として曾於高校のイメージがまだ定着してきていないと思われます。

◎市長

なぜ通学バスの利用が1年生までとなっているのですか。

◎教育委員会 総務課長

該当すると思われる路線では、大型バスを運行しておりますが、中学生と高校1年生が乗車すると満員になってしまう

	<p>ため、原則乗れないようになっております。その他の路線については、高校3年生まで乗車できているようです。</p> <p>◎市長 バスの台数を増やすことは出来ないのですか。</p> <p>◎教育委員会 総務課長 以前は直営のバスも併せて運行しておりましたが、高校2年生になると原動機付自転車の運転免許を取得し通学していることもあり、現在は運行しておりません。</p>
(6)その他	<p>◎市長 その他ご意見はありませんか。</p> <p>◎八木副市長 昨年度の曾於高校の卒業生で、就職を選択した生徒が56名おりましたが、求人は1,200社の企業から案内がありました。そのうち13名は市内企業へ就職しておりまして、今年度も14名が市内企業へ就職する予定であり、市外への就職でも約10名が市内から通勤するとのことでした。 市外からの移住を促進することも重要ですが、市内で生まれ育った子どもたちに曾於市に残ってもらうこともまた重要です。 市内に就職した卒業生の話を聞くと、市内にどのような企業があるか知らなかったと言っておりました。子どもたちにもですが、中学校PTA等の保護者へも市内企業をPRしていきたいと考えております。</p> <p>◎教育長 小学校の環境整備についてですが、次期の策定を行う平成31年度に教育振興計画へ記載したほうが良いのではないのでしょうか。</p> <p>◎市長 今後協議をおこなっていきたいと思います。</p>
4 閉会のことば	<p>◎総務課長 以上を持ちまして、第1回総合教育会議を終わります。慎重なご協議ありがとうございました。</p>

